

# Oracle Compute Cloud Serviceへの Microsoft Web Application Serverのデプロイ セットアップと構成

Oracle ホワイト・ペーパー | 2016年8月



## 目次

はじめに	1
Oracle Compute の Windows インスタンスの作成	2
Oracle Cloud への接続：リモート・デスクトップとネットワーク構成	2
Oracle Database Cloud Service の接続情報	3
Microsoft インターネット インフォメーション サービスのインストール	4
Web デプロイメント	5
サーバー・ロールの有効化	5
ASP.NET	5
IIS 管理サービス	5
Web デプロイメント・ツールのインストール	5
管理者以外による Web Deploy の構成	8
コマンドラインによる Web Deploy の構成	8
IIS マネージャによる Web Deploy の構成	8
Web アプリケーションの作成およびデプロイ	11
Web サイト・アプリケーションへの ODP.NET の追加	11
web.config での DataSource エントリの構成	12
ODP.NET データベース接続	12
Web サイト・アプリケーションのデプロイ	13
Oracle Compute でホストされる Web サイトへの接続	15
まとめ	16

## はじめに

Oracle Compute Cloud Service は、クラウド内のあらゆるワークロードを実行できる Infrastructure as a Service (IaaS) です。ワークロードには、Microsoft の .NET およびインターネット・インフォメーション・サービス (IIS) Web アプリケーション、Java テクノロジー、オープンソース・テクノロジーなどがあります。これらのオプションにより組織は、新規および既存のアプリケーションをクラウドに移行する際に柔軟に対処し、幅広い選択肢から選ぶことができます。

組織は、Oracle Compute Cloud Service 内のレガシーおよび最新の .NET および IIS アプリケーションのデプロイメントと構成を完全に制御できます。このホワイト・ペーパーでは、まず Oracle Compute Cloud Service 上に IIS および Oracle Data Provider for .NET (ODP.NET) をインストールして構成する方法について説明し、続いて Oracle Database Cloud Service に接続する方法について説明します。説明には、以下のテクノロジーと実際の手順が含まれます。

- » **Oracle Compute の Windows インスタンスの作成。** このセクションでは、Oracle Compute Cloud Service で Windows Server インスタンスを作成する方法について説明します。
- » **リモート・デスクトップとネットワークの構成。** このセクションでは、リモート・デスクトップによるアクセスと、Windows インスタンスへのネットワーク・アクセスを行うために Oracle Compute Cloud Service を構成する方法について説明します。
- » **Oracle Database Cloud Service の接続情報。** このセクションでは、Oracle Database Cloud Service の接続情報を取得する方法について説明します。
- » **Microsoft インターネット・インフォメーション・サービス。** このセクションでは、Oracle Compute Cloud Service で IIS をインストールして構成するために必要な手順を示します。ここでの手順は、IIS で Web アプリケーションをホストする場合にのみ必要です。
- » **Web デプロイメント。** このセクションでは、Oracle Compute Cloud Service で Web デプロイメントを有効にする方法について説明します。ここでの手順は、Web Deploy を使用して、IIS ベースのアプリケーションを Oracle Compute Cloud Service にデプロイする場合にのみ必要です。
- » **Web アプリケーションの作成およびデプロイ。** このセクションでは、Microsoft Visual Studio で簡単な Web アプリケーションを作成し、Oracle Compute Cloud Service にデプロイする方法について説明します。このセクションの内容は、Web Deploy を使い慣れていないユーザーが、Oracle Cloud へのデプロイで Web Deploy を使用する場合に役立ちます。

Oracle Compute Cloud Service では現在、Windows Server 2012 R2 と Windows Server 2008 R2 がサポートされています。このホワイト・ペーパーでは、実際の手順を示す場合に Windows Server 2012 R2 を使用します。

## Oracle ComputeのWindowsインスタンスの作成

このセクションでは、Oracle Compute の Windows インスタンスの作成手順を示します。Microsoft Windows Server のイメージは、Oracle Compute 内で使用する目的で Oracle Cloud Marketplace から入手できます。

1. [Oracle Cloud Marketplace](#) にサインインします。"Microsoft Windows Server 2012 R2"を検索し、その Windows イメージを選択します。
2. インスタンスの Windows 管理者用に強力なパスワードを考え、すぐに取り出せる場所にそのパスワードを保管します。必ず、パスワードが Windows パスワードの複雑さの要件を満たすようにします。
3. 「**Get App**」 ボタンをクリックし、プロセスに従い Web コンソールを使用してインスタンスを作成します。

残りの手順は、Oracle Cloud Marketplace から Oracle Compute の汎用インスタンスを作成する場合と同じです。その手順に精通していない場合は、Oracle Compute Cloud (IaaS) のドキュメント・ページの説明に従ってください。

この Oracle Compute サービスを作成するときに、管理者パスワードを記憶してください。このパスワードは、Microsoft リモート・デスクトップを介してログインする場合に必要になります。Compute インスタンスの作成が終了したら、次のセクションに進みます。

## Oracle Cloudへの接続：リモート・デスクトップとネットワーク構成

このセクションでは、Microsoft リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) によるアクセスを有効にして Windows インスタンスへのネットワーク・アクセスを構成する方法について説明します。ここでの手順に従うと、Windows クラウド・インスタンスに直接接続して、IIS Web サーバーを設定および管理し、インスタンスにアプリケーションをデプロイし、エンド・ユーザーがアプリケーションにアクセスすることを許可できます。

ポート 3389 は、RDP アクセスを許可するように構成する必要があります。ポート 80、443、8172 は、それぞれ HTTP、HTTPS、msdeploy (Web Deploy) 用に構成する必要があります。ネットワーク・ポートは、Oracle Public Cloud 管理ポータルで構成可能です。

1. Oracle Cloud My Services ダッシュボードにログインします。
2. Compute セクションに移動し、「**サービス・コンソールを開く**」 ボタンをクリックします。
3. Oracle Compute Cloud Service のサービス・コンソールで「**ネットワーク**」 タブを選択します。
4. 「**セキュリティ・アプリケーション**」メニュー項目をクリックして次のセキュリティ・アプリケーションを作成します。

- a. rdp : TCP プロトコル、ポート 3389
  - b. http : TCP プロトコル、ポート 80
  - c. https : TCP プロトコル、ポート 443
  - d. msdeploy : TCP プロトコル、ポート 8172
5. 「**セキュリティ・リスト**」メニュー項目をクリックしてインスタンスのセキュリティ・リストを作成します。インバウンド・ポリシーに拒否(DENY)と指定し、アウトバウンド・ポリシーに許可(PERMIT)と指定します。
  6. 必要に応じ、「**セキュリティ IP リスト**」メニュー項目をクリックしてセキュリティ IP リストを作成します。
  7. 「**セキュリティ・ルール**」メニュー項目をクリックして、セキュリティ IP リスト (public-internet) から、http、https、rdp、および msdeploy 用に作成したセキュリティ・リストへのセキュリティ・ルールを作成します。
  8. セキュリティ・リストを、新規作成した Oracle マシン・インスタンスに関連付けるには、次の手順に従います。
    - a. Oracle Compute メニューで「**インスタンス**」をクリックします。
    - b. 構成する予定のマシン・インスタンスを見つけ、その右側のハンバーガー・ボタンをクリックします。展開されたリストから「**表示**」を選択します。
    - c. **セキュリティ・リスト**で、「**セキュリティ・リストへの追加**」ボタンをクリックします。作成したセキュリティ・リストを選択し、「**追加**」ボタンをクリックします。
    - d. 左側にあるハンバーガー・メニューをクリックし、「**セキュリティ・リストからの削除**」を選択してデフォルトのセキュリティ・リストを削除します。

## Oracle Database Cloud Serviceの接続情報

Oracle Database Cloud Service の接続情報は、Oracle Public Cloud ポータルで確認できます。このチュートリアルでは、データベース・クラウド・サービスがすでに作成されていることを前提としています。

1. Oracle Public Cloud ポータルの Oracle Database Cloud Service セクションに移動します。
2. Oracle Database Cloud Service の「**サービス・コンソール**」をクリックします。
3. 接続先のサービス・インスタンスを選択します。**追加情報**と表示された場合は、「**Show More**」を選択します。
4. **接続文字列**を参照し、<hostname>:<port>/<service\_name>の形式で表示される接続文字列を確認します。

完全修飾ホスト名が必要になる場合があります。あるいは、IP アドレスを代わりに使用できます。この情報を確認するには、次の手順に従います。

1. Oracle Database Cloud Service の「**サービス・コンソール**」を選択します。
2. ハンバーガー・メニューから、データベース・サービスのインスタンスで「**表示**」を選択します。
3. データベース・サービスの完全修飾ホスト名については **DNS 名**の情報を、その IP アドレスについては**パブリック IP アドレス**の情報を確認します。

## Microsoftインターネット インフォメーション サービスのインストール

このセクションでは、Web コンテンツをホストする場合に必要な Microsoft IIS のインストール方法について説明します。IIS のインストールと最終的な設定では、構成した RDP 接続を使用する必要があります。

1. Windows クライアントから Microsoft リモート・デスクトップを開きます。
2. Computer フィールドに Oracle Compute Cloud Service のパブリック IP を入力します。
3. ユーザー名として、Administrator と入力します。
4. パスワードを入力します。このパスワードは、インスタンスの作成プロセスで指定したものです。
5. 「**OK**」をクリックします。
6. IIS Web サーバー・ロール「Web サーバー (IIS)」は、GUI ベースのサーバー・マネージャまたはコマンドラインを使用して有効にすることができます。
  - a. GUI ベースのサーバー・マネージャのインストール方法については、こちらを参照してください。
  - b. あるいは、コマンドラインから次のコマンドを使用して、マシンに存在する、展開イメージのサービスと管理ツール (DISM.exe) を実行します。

**DISM.EXE /enable-feature /online /featureName:IIS-WebServerRole  
/featureName:IIS-WebServer**

7. Web サーバー (IIS) を有効にしたら、それが実行されていることを確認します。

## Webデプロイメント

このセクションでは、Oracle Compute の Windows インスタンスに Web アプリケーションをデプロイするために必要な手順を示します。

### サーバー・ロールの有効化

次のサーバー・ロールを有効にします。

- » ASP.NET
- » 管理サービス

#### ASP.NET

ASP.NET ベースの管理対象 Web アプリケーションを実行する場合は、ASP.NET が必要です。ASP.NET は、サーバー・マネージャの「**Web サーバー ロール (IIS)**」→「**役割サービス**」ページの「**アプリケーション開発**」でこのオプションを選択するとインストールできます。

あるいは、以下のコマンドを実行してコマンドラインからこのタスクを実行することもできます。

```
DISM.EXE /enable-feature /all /online /featureName:IIS-ASPNET45
```

このコマンドでは、ASP.NET 4.5 がインストールされます。

#### IIS管理サービス

Web サーバーをリモートで管理し、Web アプリケーションをリモートでデプロイおよび管理する場合は、IIS 管理サービスが必要です。IIS 管理サービスは、サーバー・マネージャの「**Web サーバー ロール (IIS)**」→「**役割サービス**」ページの「**管理ツール**」でこのオプションを選択するとインストールできます。

あるいは、以下のコマンドを実行してコマンドラインからこのタスクを実行することもできます。

```
DISM.EXE /enable-feature /all /online /featureName:IIS-ManagementService
```

### Webデプロイメント・ツールのインストール

Web Deploy を使用して、IIS Web サーバー、Web アプリケーション、Web サイトを移行、管理、およびデプロイすることができます。

Web デプロイメント・ツールの IIS Deployment Handler 機能をインストールすることにより、Web 管理サービスと統合でき、ユーザーはリモート操作を実行できます。

[Microsoft Web Deploy のダウンロード・ページ](#)から Oracle Compute インスタンスに Web デプロイメント・ツールをダウンロードします。オラクルでは 64 ビット・バージョンを使用することを推奨しています。

このファイルをインターネットからダウンロードする場合は、ブラウザのセキュリティ設定を変更する必要があります。

1. Internet Explorer に移動します。
2. メニュー・バーの「ツール」で「**インターネット オプション**」を選択します。

3. 「セキュリティ」タブをクリックします。
4. 「インターネット」アイコンをクリックします。
5. 「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックします。
6. 「ダウンロード」 → 「ファイルのダウンロード」設定までスクロールし、「有効にする」を選択します。
7. 「OK」を2回クリックして終了します。

Web Deploy は、コマンドラインで以下のコマンドを使用してサイレント・モードでインストールすることができます。

```
msiexec /i WebDeploy_amd64_en-US.msi ADDLOCAL=ALL LicenseAccepted="0" /qn
```

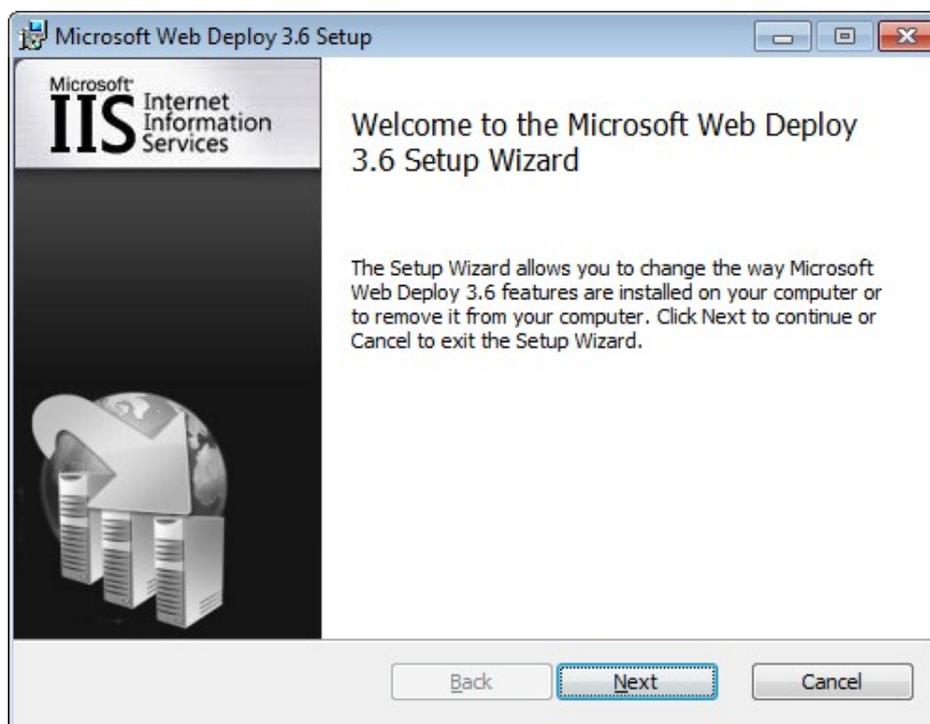
注：このコマンドを実行するとすぐに結果が返されますが、Windows インストーラのプロセスが実行を続け、インストールが完了するまでに数分かかることがあります。

代わりに以下のコマンドを実行してプログレス・バーを表示し、インストールの状況を示すことができます。

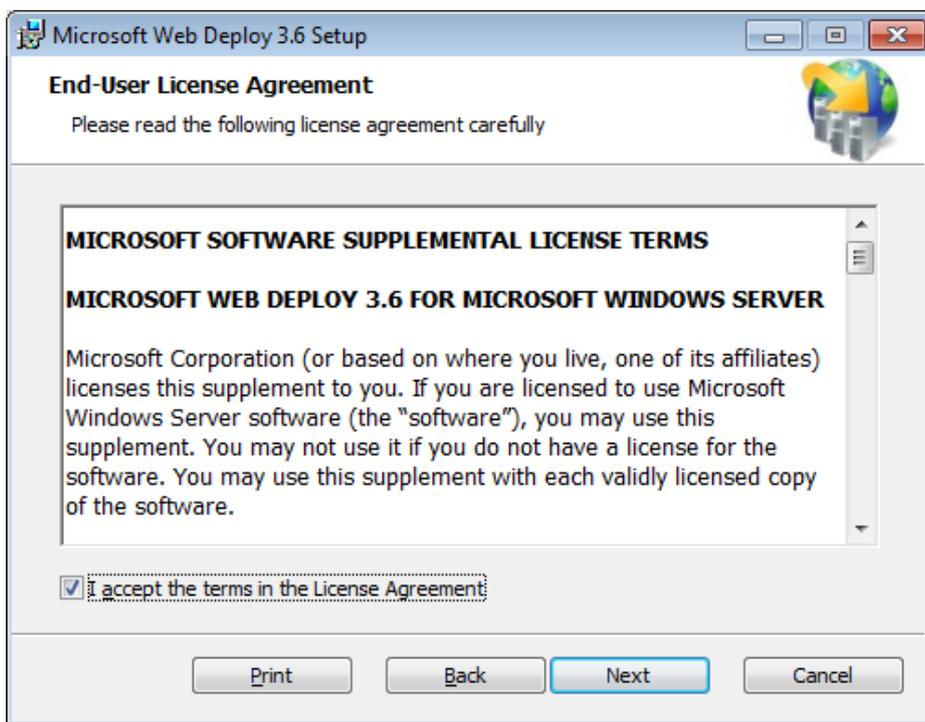
```
msiexec /i WebDeploy_amd64_en-US.msi ADDLOCAL=ALL LicenseAccepted="0" /passive
```

あるいは、ダウンロードした MSI ファイルを実行して GUI インストーラを使用することができます。

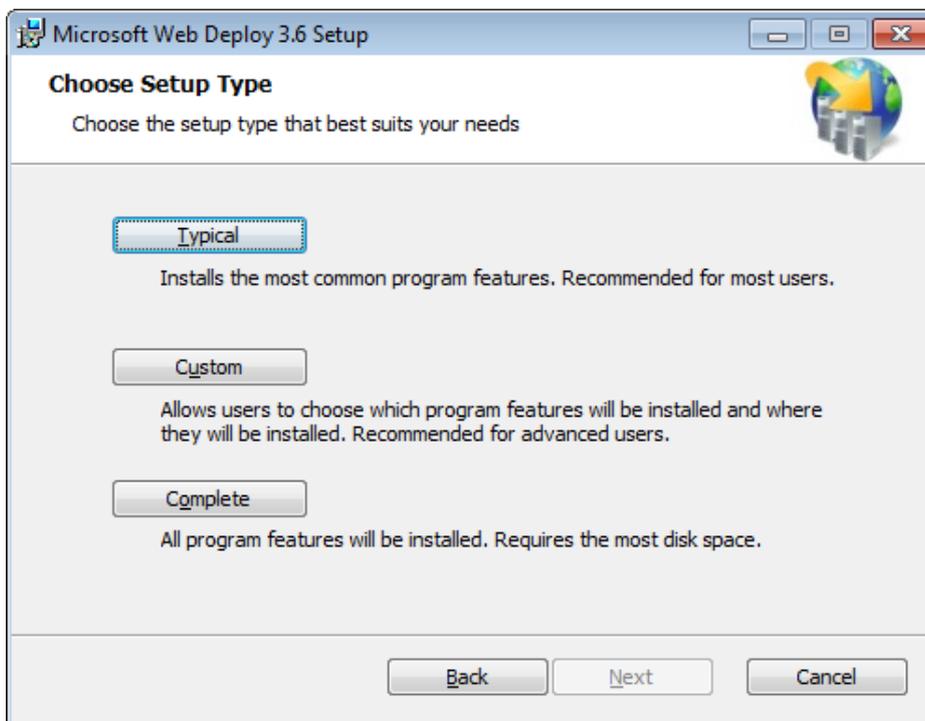
1. MSI ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
2. 「次へ」ボタンをクリックします。



3. ライセンス契約に同意し、「次へ」ボタンをクリックします。



4. セットアップの種類として「完全」を選択して、IIS Deployment Handler もインストールされるようにします。または、セットアップの種類として「カスタム」を選択し、IIS Deployment Handler 機能を選択します。



5. 「インストール」 ボタンをクリックしてインストールを開始します。

## 管理者以外によるWeb Deployの構成

Web Deploy を使用して Visual Studio から Web アプリケーションを発行する場合は、ユーザー名とパスワードを指定する必要があります。ユーザーは IIS の Web Deploy によって認証されますが、そのユーザーには Web アプリケーションをデプロイする権限が必要になります。まず、IIS で Windows ユーザーを作成する必要があります。その結果、IIS マネージャを使用してその Windows ユーザーを認証することができます。この手順は、コマンドラインまたは IIS マネージャのどちらかで構成できます。

### コマンドラインによるWeb Deployの構成

Web Deploy のセットアップを自動化する場合は、[Microsoft のドキュメント](#)の説明に従って **SetupSiteForPublish.ps1** を実行します。

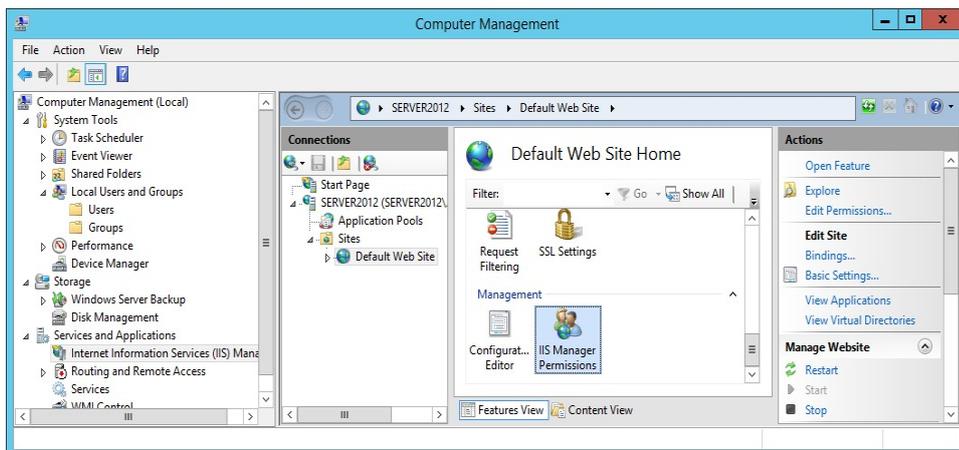
たとえば、既存の Web サイト「**Default Web Site**」で **Oracle** という名前の Windows ユーザーに発行し、発行設定ファイル **Oracle\_Default Web Site.PublishSettings** を Windows 管理者デスクトップに保存するとします。PowerShell コマンド・ウィンドウで、'%programfiles%\IIS\Microsoft Web Deploy v3\Scripts'ディレクトリから以下のように **SetupSiteForPublish.ps1** を実行します。

```
.\SetupSiteForPublish.ps1 -siteName "Default Web Site" -deploymentUserName Oracle -publishSettingSavePath C:\Users\Administrator\Desktop -publishSettingFileName "Oracle_Default Web Site.PublishSettings"
```

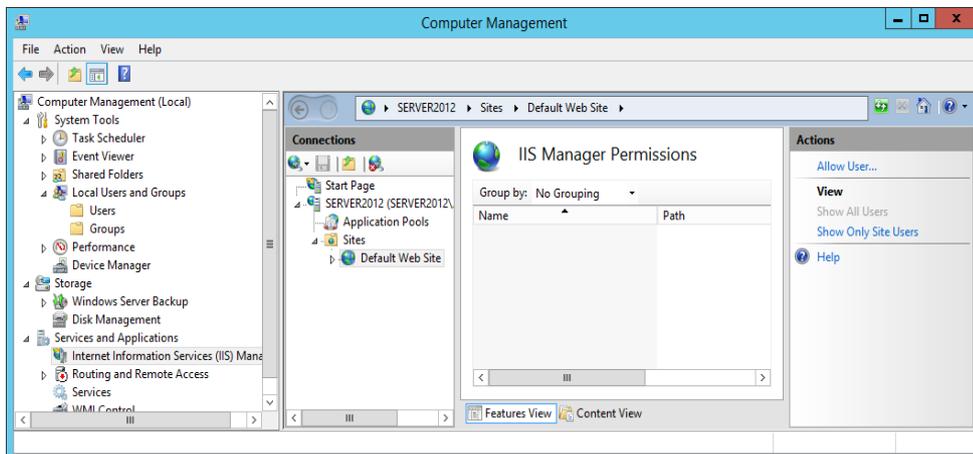
注：**Oracle\_Default Web Site.PublishSettings** ファイルには、デプロイメント・ユーザー名に対応するパスワードが保存されています。

### IISマネージャによるWeb Deployの構成

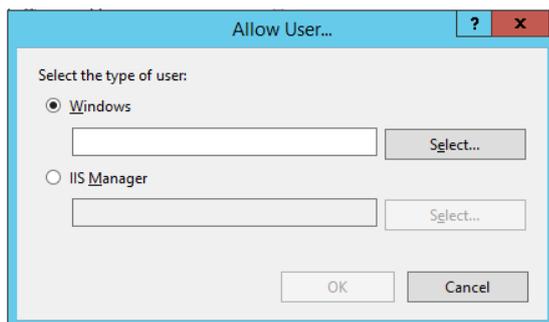
1. IIS マネージャで、「**Default Web Site**」を選択し、「**IIS マネージャのアクセス許可**」をダブルクリックします。



2. 操作ペインで、「**ユーザーの許可**」をクリックします。

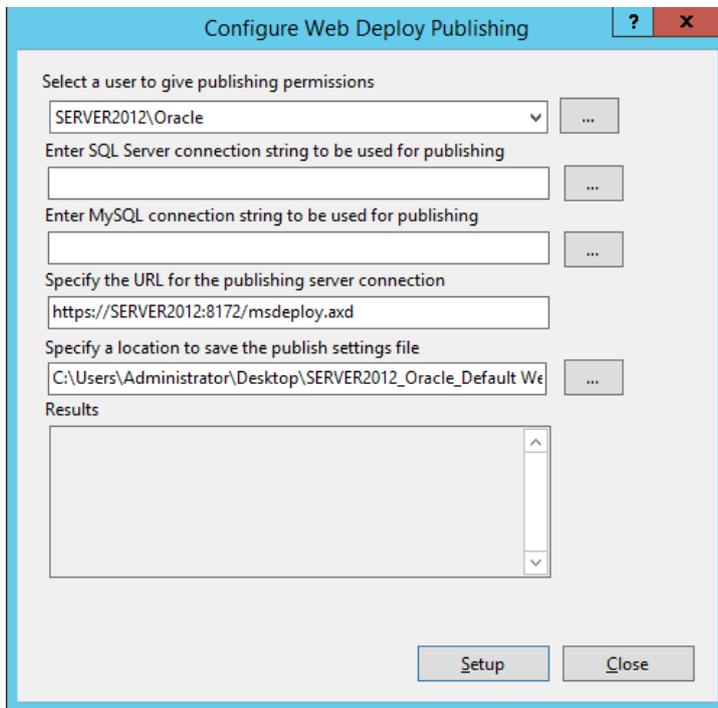


ユーザーの許可ダイアログ・ボックスにおいて、「**Windows**」が選択された状態で「**選択**」をクリックし、Windows ユーザーを選択します。次に、「**OK**」をクリックします。



3. IIS マネージャで「**Default Web Site**」を右クリックし、展開サブメニューで「**Configure Web Deploy Publishing**」を選択します。展開サブメニューが表示されない場合は、一度 IIS マネージャを閉じてから再度開いてください。

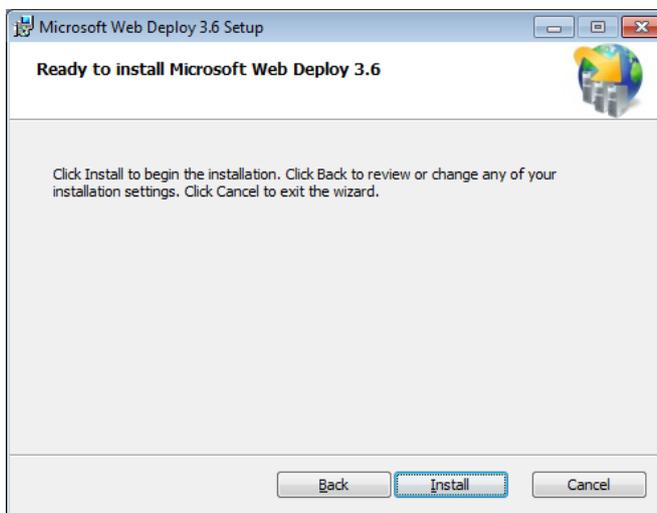
「**Select a user to give publishing permissions**」の下矢印をクリックし、「**Oracle**」などの認証対象の Windows ユーザーを選択します。次に、「**セットアップ**」をクリックします。



4. Windows ユーザーが認証され、Web Deploy を使用して Web アプリケーションがデプロイされます。

PublishSettings ファイルも生成されます。このファイルを Visual Studio が実行されているクライアントにコピーし、Publish Web ウィザードでインポートすることができます。その後、構成が必要です。

- a. Web アプリケーション名を、サイト名と宛先 URL に付加する必要があります。
- b. マシン名は、Oracle Compute インスタンスの IP アドレスまたは DNS 名に置き換える必要があります。
- c. Publish Web ウィザードでは、パスワードを入力する必要があります。



## Webアプリケーションの作成およびデプロイ

このセクションでは、オンプレミスから Oracle Compute の Windows インスタンスに至るまで ODP.NET を使用する、ASP.NET アプリケーションを作成してデプロイする手順を示します。

### Web サイト・アプリケーションの作成

以下の手順に従って ASP.NET の Web サイト・アプリケーションを作成します。

1. Visual Studio 2015 を開きます。
2. 「ファイル」 → 「新規作成」 → 「プロジェクト」の順にクリックします。
3. 左ペインの「テンプレート」 → 「Visual C#」で、「Web」を選択します。中央ペインで、「ASP.NET Web アプリケーション」を選択します。プロジェクトの名称と場所を指定します。ダイアログ上部のドロップダウンから、.NET Framework の適切なターゲット・バージョンを選択します。.NET Framework 4.0、4.5、4.5.1 は Windows 2012 R2 に組み込まれています。4.5.2 以降の .NET Framework はデフォルトでは組み込まれていませんが、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。「OK」をクリックします。
4. **New ASP.NET Project** 画面で、テンプレートとして「空」を選択します。「OK」をクリックします。
5. ソリューション・エクスプローラでプロジェクトを右クリックし、「追加」 → 「新しい項目」を選択します。
6. 新しい項目の追加ダイアログの左ペインで、「Visual C#」 → 「Web」を選択します。中央ペインで「Web フォーム」を選択します。default.aspx などの適切な名前を選択します。「追加」をクリックします。  
注：既定のページとして従来形式以外の名前（WebForm1.aspx など）を選択する場合は、Web サーバーの IIS マネージャの「既定のドキュメント」にこの名前を追加します。
7. プロジェクトで **default.aspx** を右クリックし、「スタート ページに設定」を選択します。

### Web サイト・アプリケーションへの ODP.NET の追加

ODP.NET 管理対象ドライバを ASP.NET アプリケーションに追加し、中間層とデータベース・サーバーの間でのデータ・アクセスを実行できるようにします。この手順では、NuGet パッケージ管理を使用したインストール方法の概要を示します。

1. GAC に存在するものとメイン・メジャー・バージョン番号が同じである、既存の管理対象 ODP.NET アセンブリ（**Oracle.ManagedDataAccess.dll**）およびポリシー DLL（**Policy.4.121.Oracle.ManagedDataAccess.dll**）を GAC からアンインストールし、構成解除します。たとえば、Oracle Compute アプリケーションで管理対象 ODP.NET バージョン 12.1.0.2 を使用する予定の場合は、GAC からすべての管理対象 ODP.NET 12.1.0.2 を削除します。
2. **machine.config** に **Oracle.ManagedDataAccess** 参照が存在する場合は、その参照をすべて削除します。
3. 既存の Web サイト・プロジェクトを右クリックし、「NuGet パッケージの管理」を選択します。

4. パッケージ・ソースとして「**nuget.org**」を選択します。
5. 検索ボックスで、ID が **Oracle.ManagedDataAccess** のパッケージを検索します。公式の Oracle Data Provider for .NET 管理対象ドライバであることを確かめるために、パッケージでこの一意の ID が使用されていることを確認します。
6. パッケージを選択し、「**インストール**」ボタンをクリックします。
7. ライセンス契約に同意すると、Visual Studio でセットアップが続行されます。

### web.configでのDataSourceエントリの構成

Web アプリケーションの **web.config** ファイルは、Oracle Database Cloud Service に接続するための <dataSource> エントリを指定して適切に構成する必要があります。

Oracle Database Cloud Service の接続情報は、Oracle Public Cloud ポータルで確認できます。この情報を確認する方法については、このホワイト・ペーパーの前半にある「**Oracle Database Cloud Service の接続情報**」セクションで説明しました。

NuGet パッケージをインストールすると、web.config の SampleDataSource エイリアスに、以下に示すような <dataSource> エントリが作成されます。

```
<dataSources>

    <dataSource alias="SampleDataSource"
descriptor="(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp)(HOST=<host_name>)(PORT=<port>))(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=<service_name>)))" />

</dataSources>
```

**SampleDataSource** エイリアスの <host\_name>、<port>、および <service\_name> の各プレースホルダを、Oracle Public Cloud ポータルから得られた接続文字列の値を使用して変更します。SampleDataSource 名は、使用するアプリケーションとの関連性がより高い名前に変更することもできます。

### ODP.NETデータベース接続

以下の手順により、Web サイト・アプリケーションで ODP.NET を使用してデータベース・サービスに接続することができます。

1. ボタン・コントロールをプロジェクトの **default.aspx** Web フォームに追加します。プロパティ・ページでボタンのテキストを「**接続を開く**」に設定します。
2. ラベル・コントロールを **default.aspx** に追加し、テキストを「**接続状態**」に設定します。
3. テキスト・ボックスを **default.aspx** に追加します。
4. 管理対象 ODP.NET ネームスペースを使用するために、**default.aspx.cs** ファイルの最上部にある using ディレクティブのセクションに「**using Oracle.ManagedDataAccess.Client**」を追加します。
5. ボタンをダブルクリックして以下のコードを追加します。

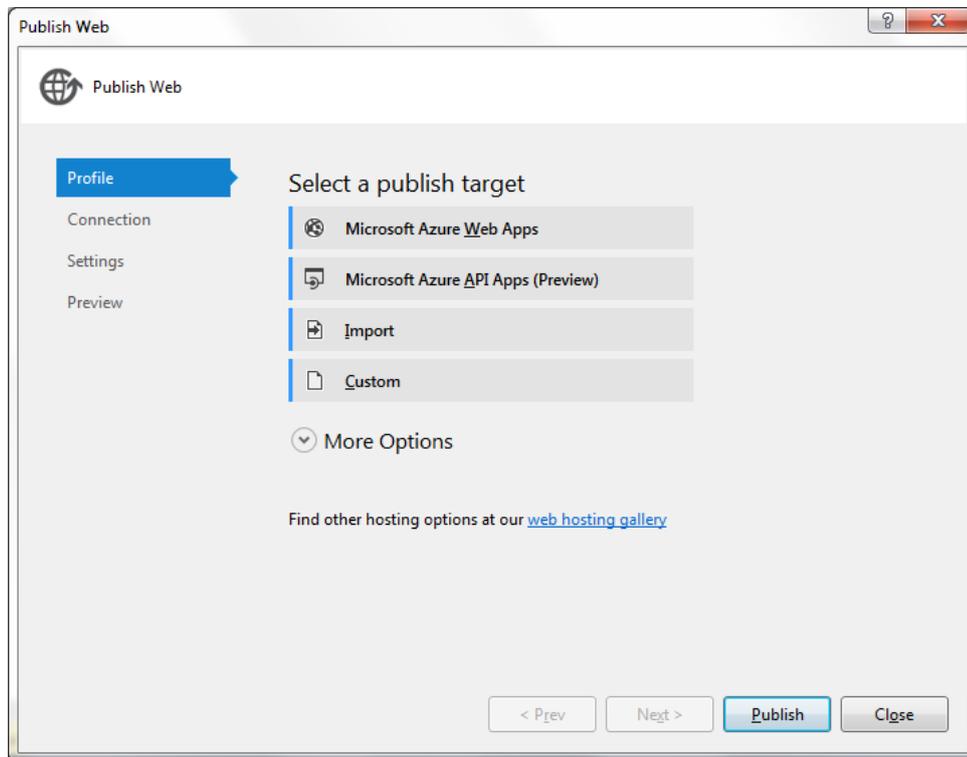
---

```
// C# -- Specify appropriate user id, password, and data source below
string constr = "user id=<user id>;password=<password>;data source=<SampleDataSource>";
try
{
    OracleConnection con = new OracleConnection(constr);
    con.Open();
    TextBox1.Text = con.State.ToString();
}
catch (Exception ex)
{
    TextBox1.Text = ex.Message;
}
```

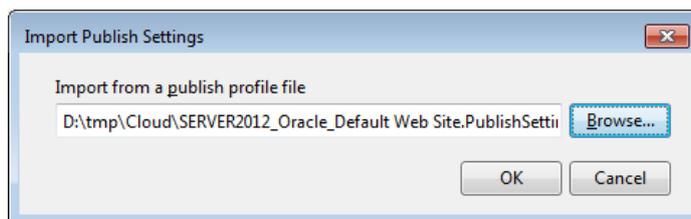
---

### Webサイト・アプリケーションのデプロイ

1. Visual Studio 2015 の Web サイト・プロジェクトで、「ビルド」 → 「<Project Name> の発行」をクリックします。
2. **Publish Web** ダイアログの**プロファイル**で、発行ターゲットの「インポート」を選択します。



3. 「**Import Publish Settings**」ダイアログで、このホワイト・ペーパーの「**管理者以外による Web Deploy の構成**」セクションで作成した PublishSettings ファイルを指定します。すでに Oracle Compute インスタンスからローカルの開発マシンにこのファイルをコピーしているかもしれません。「**OK**」をクリックします。



4. **Publish Web** ダイアログの接続で、以下の値を指定して「発行」ボタンをクリックします。
  - a. **発行方法** : Web Deploy
  - b. **サーバー** : 仮想マシン・インスタンスの IP アドレスまたは DNS 名を指定して、PublishSettings ファイルでの値を置き換える必要があります。これは、Microsoft リモート・デスクトップを介してマシンに接続するために使用したのと同じ IP アドレスです。https://<IPaddress>:8172/msdeploy.axd などのように、Web Deploy 用の形式を含むサーバーへの完全 URL を使用します。
  - c. **サイト名** : Web アプリケーション名を Web サイト名に付加し、PublishSettings ファイルでの値を置き換える必要があります。
  - d. **ユーザー名** : PublishSettings ファイルでのユーザー名を使用します。これは、管理者以外による Web Deploy の構成時に認可されたユーザーです。

- e. **Password** : ユーザー名に対応するパスワードを指定します。
- f. **ターゲット URL** : 仮想マシン・インスタンスの IP アドレスまたは DNS 名を指定して、**http://<IP address>/<Site Name>**形式により、PublishSettings ファイルでの値を置き換える必要があります。

The screenshot shows the 'Publish Web' dialog box with the following configuration:

- Profile: Test \*
- Connection: Selected
- Publish method: Web Deploy
- Server: https://129.144.28.10:8172/msdeploy.axd
- Site name: Default Web Site/WebApplication1
- User name: Oracle
- Password: [Masked]
- Save password:
- Destination URL: http://129.144.28.10/WebApplication1
- Buttons: Validate Connection, < Prev, Next >, Publish, Close

### Oracle ComputeでホストされるWebサイトへの接続

Oracle Compute インスタンスに発行された Web サイトの場合は、ブラウザを開き、次のように指定してそのサイトに接続できるようになりました。

**http://<IP or machine name>/<Site Name>**

次に例を示します。

http://123.123.123.123/WebApplication1

これにより、スタートアップ・ページ **default.aspx** がロードされます。「**接続を開く**」ボタンをクリックし、テキスト・ボックスで接続ステータスを確認します。ブラウザから、Oracle Compute の Windows インスタンス (IIS が稼働) を介して Oracle Database Cloud Service に正常に接続できます。



## まとめ

このホワイト・ペーパーでは、Oracle Public Cloud (IaaS) で Microsoft Windows、.NET、および IIS をセットアップする方法を示しました。Oracle Cloud Marketplace を使用し、Oracle Compute の Windows インスタンスを作成してから、マシンに IIS と .NET をインストールして設定しました。さらに、ASP.NET アプリケーションを作成し、Oracle Compute にデプロイしました。ASP.NET アプリケーションを Oracle Database Cloud Service に接続しました。最後に、Oracle Compute でホストされている Web サイトに接続し、その Web アプリケーションを使用することができました。

  
**Oracle Corporation, World Headquarters**500 Oracle Parkway  
Redwood Shores, CA 94065, USA**海外からのお問い合わせ窓口**電話：+1.650.506.7000  
ファクシミリ：+1.650.506.7200

## CONNECT WITH US

-  [blogs.oracle.com/oracle](https://blogs.oracle.com/oracle)
-  [facebook.com/oracle](https://facebook.com/oracle)
-  [twitter.com/oracle](https://twitter.com/oracle)
-  [oracle.com](https://oracle.com)

**Integrated Cloud Applications & Platform Services**

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、記載内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。1116

Oracle Compute Cloud Service への Microsoft Web Application Server のデプロイ  
2016年8月

著者：Steven Caminez, Alex Keh, Ashish Shah  
共著者：Riaz Ahmed, Nari Akiyama



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment.